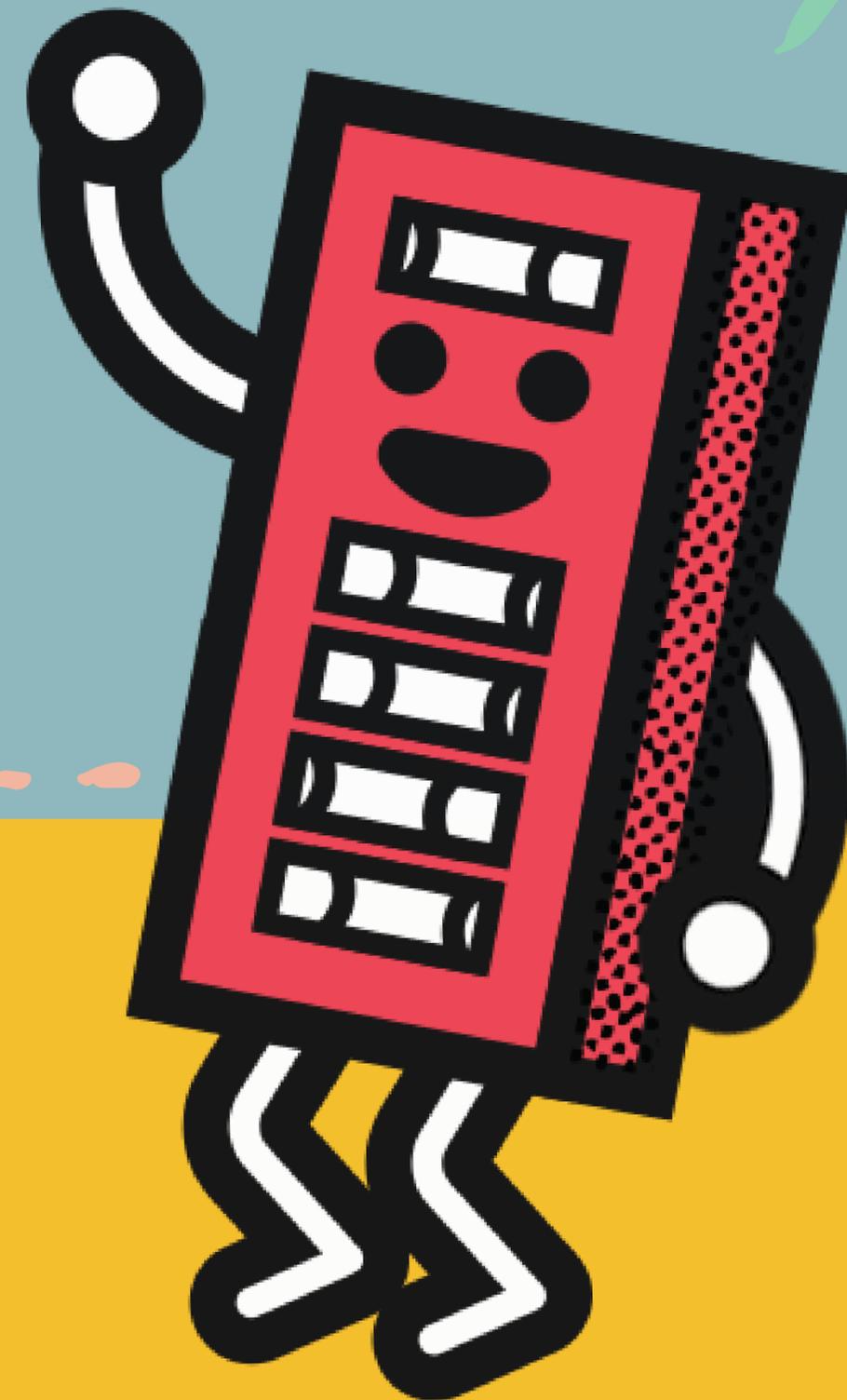


dip switches 101

なぜChase Blissのペダル背面には、赤いボックスの中に沢山の小さいスイッチがあるのか？
それこそが重要なのです。

これらのdipスイッチは一歩進んでペダルを貴方好みにする手助けをしてくれるのです！



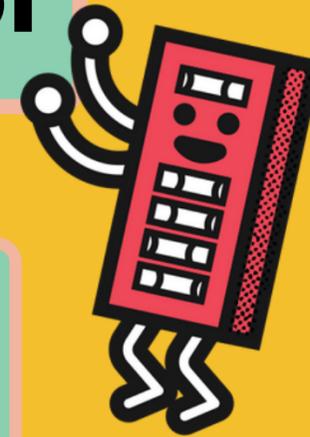
DIPたちはなにををするの？

彼らは2つの仕事をします



customization

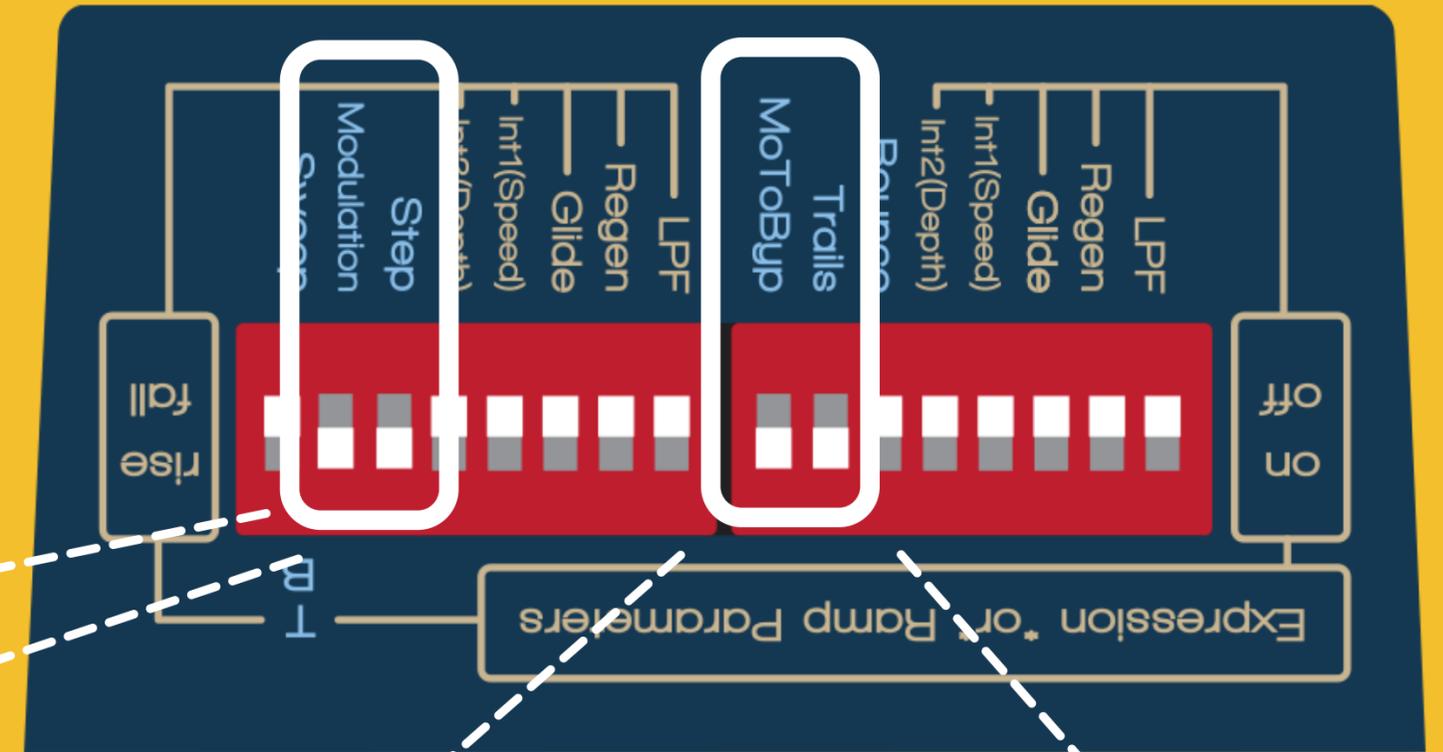
advanced control



以上です！ボンネットを開けて隠された機能にアクセスしてパーソナライズできます。各ペダルは少しずつ機能が異なりますが、1つを理解すれば後は早いはずですよ。

CUSTOMIZATION

dipスイッチを探究するのに最もシンプルなスタートです。Thermaeを例に見てみましょう。ハイライトされたdipスイッチは、ペダルの機能のうち1つを変化させます。単純にスイッチをon(上)にすればOKです。



Modulation

重要なdipです。Thermaeの4つのコントロールを、ユニークでクリエイティブなモジュレーションを形成するためのパラメータへ変更します。変更後のパラメータはカッコ内に記載されています。

Step

これは楽しいやつです。オンにするとThermaeのシーケンスがTAPフットスイッチを踏んだときのみ進みます。これによりよりスタンダードなアナログディレイとしてプレイし、演出に合わせてシーケンスを手動で起こせます。

MoToByp

Momentary Bypassの略です。Bypassフットスイッチを押している間のみペダルがオンになります。ほとんどのChase Blissペダルに搭載されています。

Trails

offだとペダルはトゥルーバイパスになり、ペダルオフ時にエコーもすぐに途切れます。onではペダルはバッファードバイパスになり、エコーが自然にフェードアウトします。

Chase Blissペダルはそれぞれ独自のカスタマイズのオプションがあります。何を変更できるかはマニュアルをチェックしてください。

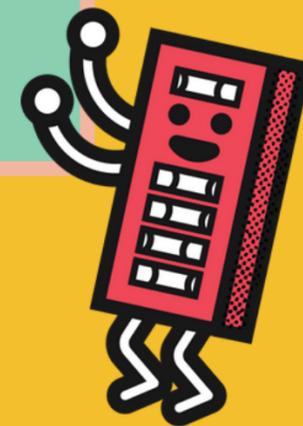
ADVANCED CONTROL

dipスイッチを多く使う目的。
より深いコントロールを達成します。



expression/cv

ramping



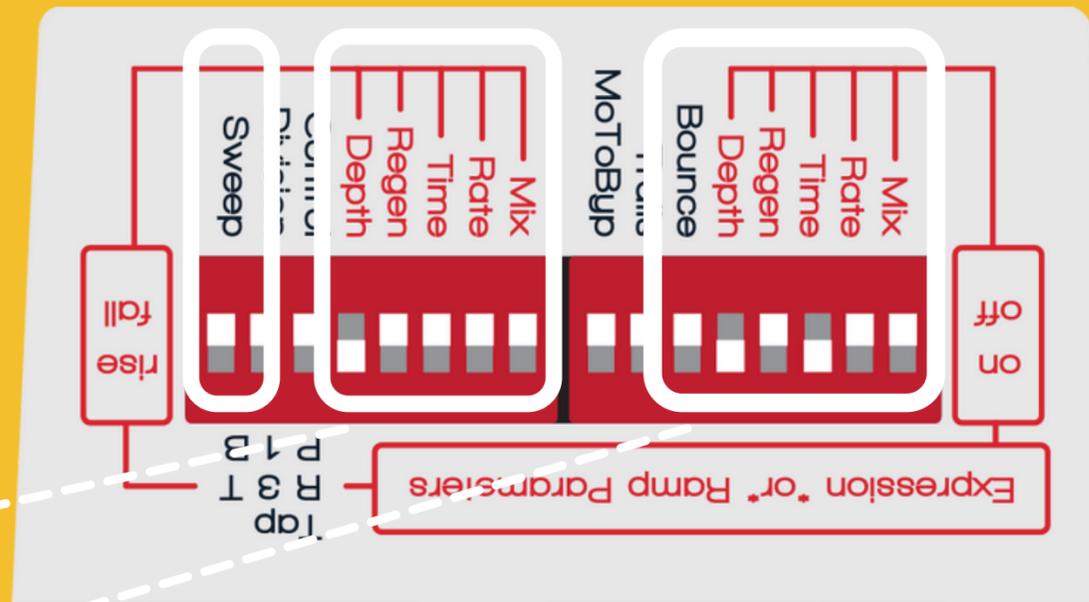
bounce



EXPRESSION/CV

expression / CVから始めましょう。ここではTonal Recallを例にします。エクスペッションまたはCVがペダルに接続されたとき、ペダルは信号を自動的に判別します*。

この例ではパラメータの動きをカスタマイズしていて、トポジションに移動するとTonal Recallのモジュレーションはゆっくりかつ深くなります。様々なテイストのモジュレーション設定を通過し、最後はベンドに近い不安定なサウンドとなります。



1. Rise or Fall (Polarity)

ノブの動く方向を選択します。RISEはエクスペッションがトポジションに移動するとノブが上がり、FALLでノブは下がります。

2. Engage

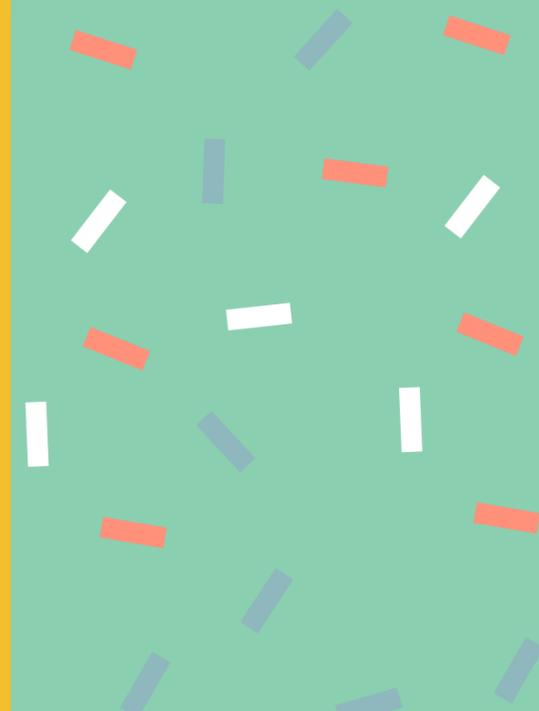
どのノブを制御するかを決定します。複数のノブを同時に選択することも可能です。対応するスイッチをon(上)にすればOKです。ここではDEPTHとRATEを選択しています。

3. Sweep

スイープの範囲を決定します。ノブの最小位置から現在の位置で移動(B)か、ノブの最大位置から現在の位置で移動(T)から選択します。この設定は全ノブ共通です。



4. Enjoy!



Bonus!

ほとんどのChase Blissペダルは追加のエクスペッションのオプションがあります。エクスペッションまたはCVを接続したら、操作するノブを選択せず全てオフにしてください。Tonal Recallの例では、モジュレーションエフェクトをマニュアルビブラートのように制御できるようになります。



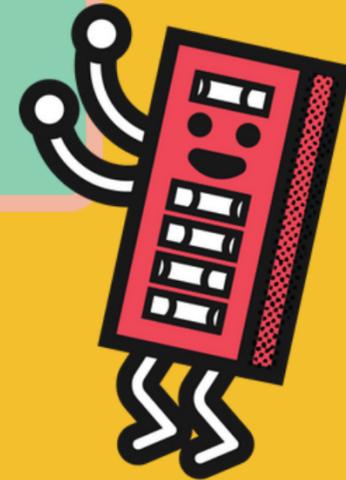
RAMPING

Rampingはノブを自動的に動かす機能です。rampingはエクスペッションと同じように設定できます。EXP/CV入力に接続がない限り、パラメータはrampへ割り当てられます。まるで追加の手が生えたみたいだね！

rampingには2つの方法があります

ramp

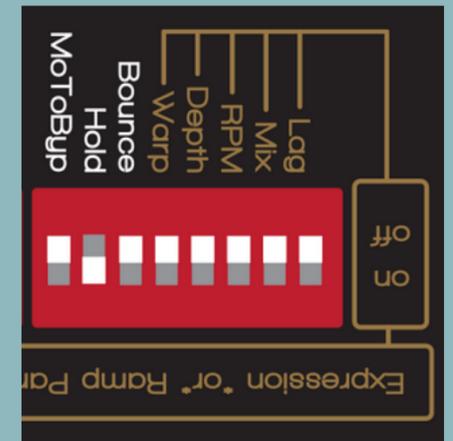
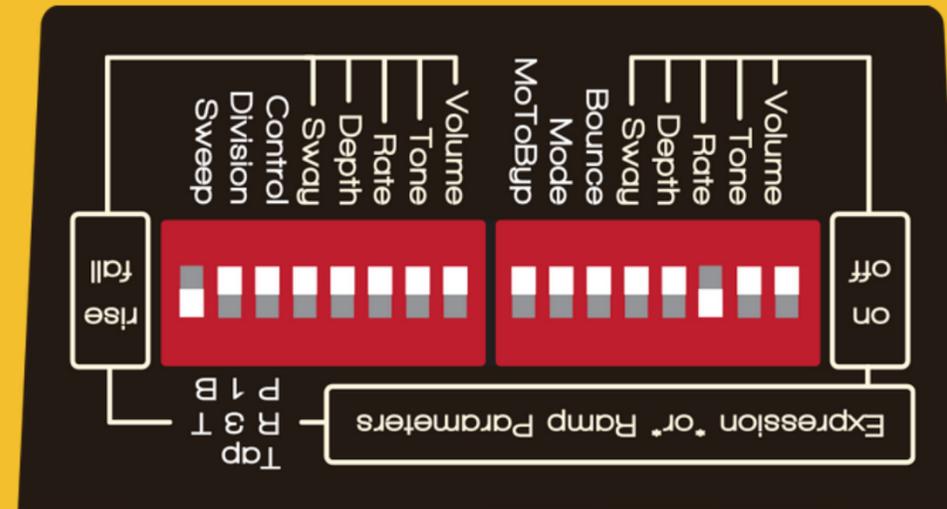
bounce



RAMP

Rampはペダルをオンにしたときに発生する、1度だけのムーブメントです。エクスプレッションペダルが1度だけ完全にスイープし、その場に留まるのと同じです。パフォーマンスへアクセントを加えたり、ペダルをオンにしたときのドラマチックな入り口にもぴったりです。例としてGravitasを使いましょう。

この例では、Gravitasは最大のレート、速く狂ったようなトレモロでスタートし、段々とRateノブで設定した位置に変化していきます。



Hold

Warped Vinyl HiFiには便利な隠された機能があります。TAPフットスイッチを長押しすることで、rampingをいつでもモーメンタリーで発生させられます。

1. Configure

どのノブを、どうやってrampするか選択しましょう。エクスプレッション/CVを設定するステップの1-3と同様です。ここではRateを選択し、最大値からよりリラックスした位置へ変化させます。

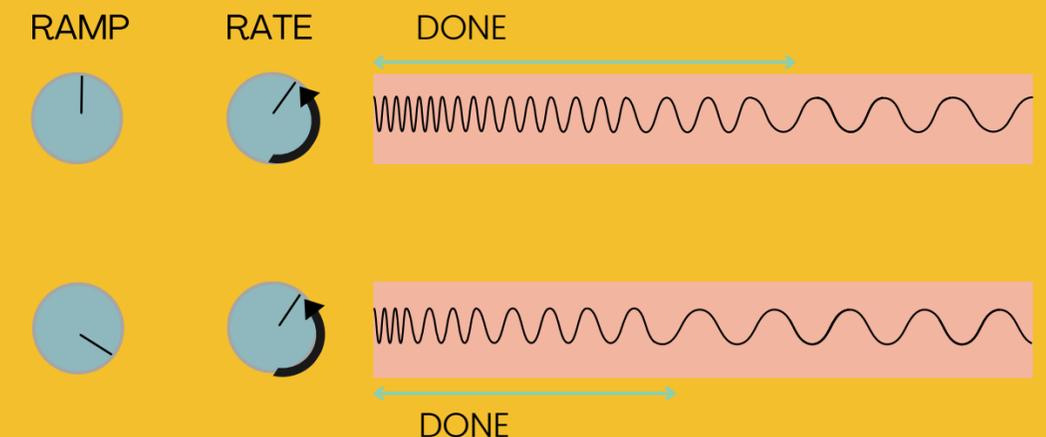
2. Set Ramp Speed

Rampが有効のとき**、ノブのうち1つがrampスピードを設定するノブとなります(ペダルにカッコで表記されています)。rampスピードはスイープが完了するまでの時間を設定します。

3. ACTIVATE

ペダルをオンにしてみましよう。ramp機能は連続した動きではないことに注意してください。ペダルをオンにしたときのみ、rampエフェクトを聴くことができます。

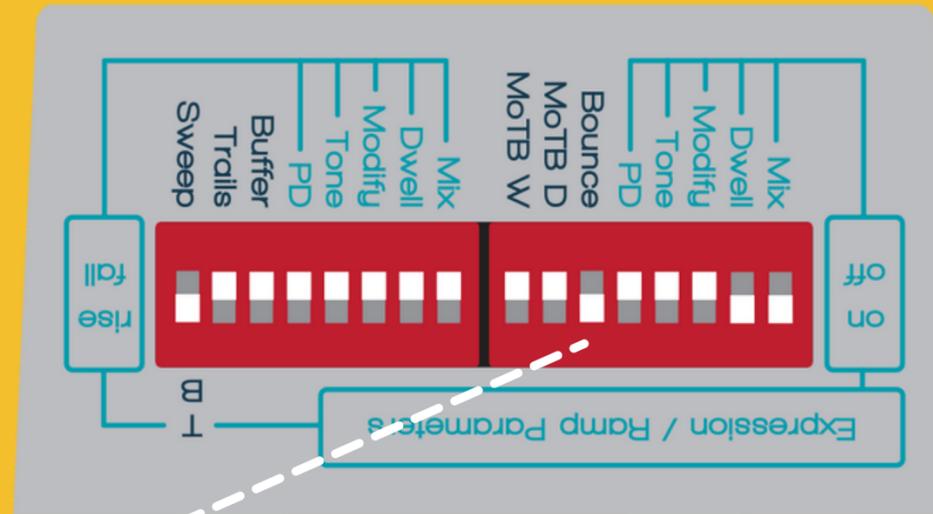
Ramp speed



BOUNCE

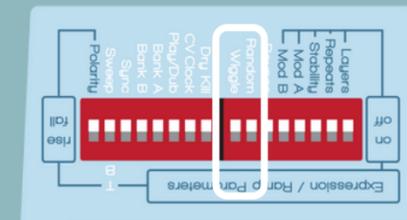
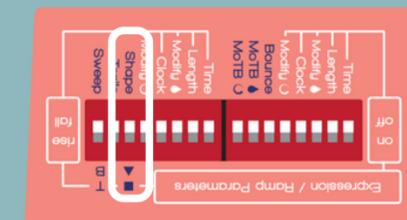
Bounceは更に一步進んだオプションです。rampingを連続した動きへ変化させます。どのノブも動かすことができるトレモロのようにイメージしてみましょう。この機能はDark Worldがぴったりです。

この例ではDWELLをバウンスさせて、残響が響く部屋のサイズが次々に変化するような演出を行います。更に動きにMIXノブも加えれば、部屋から出たり入ったりするような雰囲気にもなります。無限にある可能性の、ほんの一例です。



Deeper ramping

いくつかのペダルは、rampingを更に深くカスタマイズできます。MOODは矩形波でのランピングを適用でき、2つのポイント間を正確に変化するようになります。blooperにもいくつかのrampingのオプションがあり、ランダムにしたり、ループの長さへランピングの速度を同期させたりができます。



1. Configure

どのノブを、どうやってrampさせるか選択しましょう。エクスプレッション/CVを設定するステップの1-3や、rampの設定時と同様です。ここではDwellとMixを割り当てます。

2. Engage BOUNCE

Bouceのdipスイッチをオンにすると、なめらかで連続した動きがスタートします。

3. Enjoy!

動きを聴いてみよう。Bounceは連続した動きなので、プレイしながら変化やアレンジを加えることも出来ます。

Ramp speed

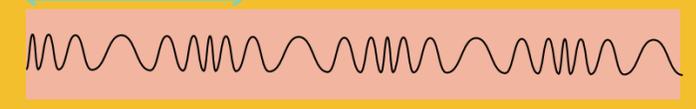
RAMP



RATE



1 cycle



1 cycle



That's all!

これが、DIPスイッチ。小さなスイッチだけど、大きな可能性が秘められています。このガイドが皆さんの役に立てば幸いです。

*Chase Blissのペダルはエクスペッション、CV、rampingを有効にするのに共通のdipスイッチを使用します。入力する信号をペダル上で選択する必要はなく、自動的に信号を判別します。rampingをしたい場合は、全てのケーブルをEXP/CVジャックから抜き、dipスイッチを設定すればOKです。

**エクスペッション、CV、rampingはノブに対応するスイッチがonポジションになった瞬間に有効になります。